

第3回デフリンピック運営委員会 議事次第

日時：2023年11月7日 15:00～17:00

場所：戸山サンライズ 2階 大会議室

1. 委員長挨拶

2. 議題

(1) 諸委員会の委員の選任等について

- ①コンプライアンス委員会委員の選任
- ②利益相反管理委員会委員の選任
- ③懲戒審査委員会委員の選任
- ④内部通報窓口の指定

(2) 「第25回夏季デフリンピック競技大会 東京2025 開催基本計画」の策定について

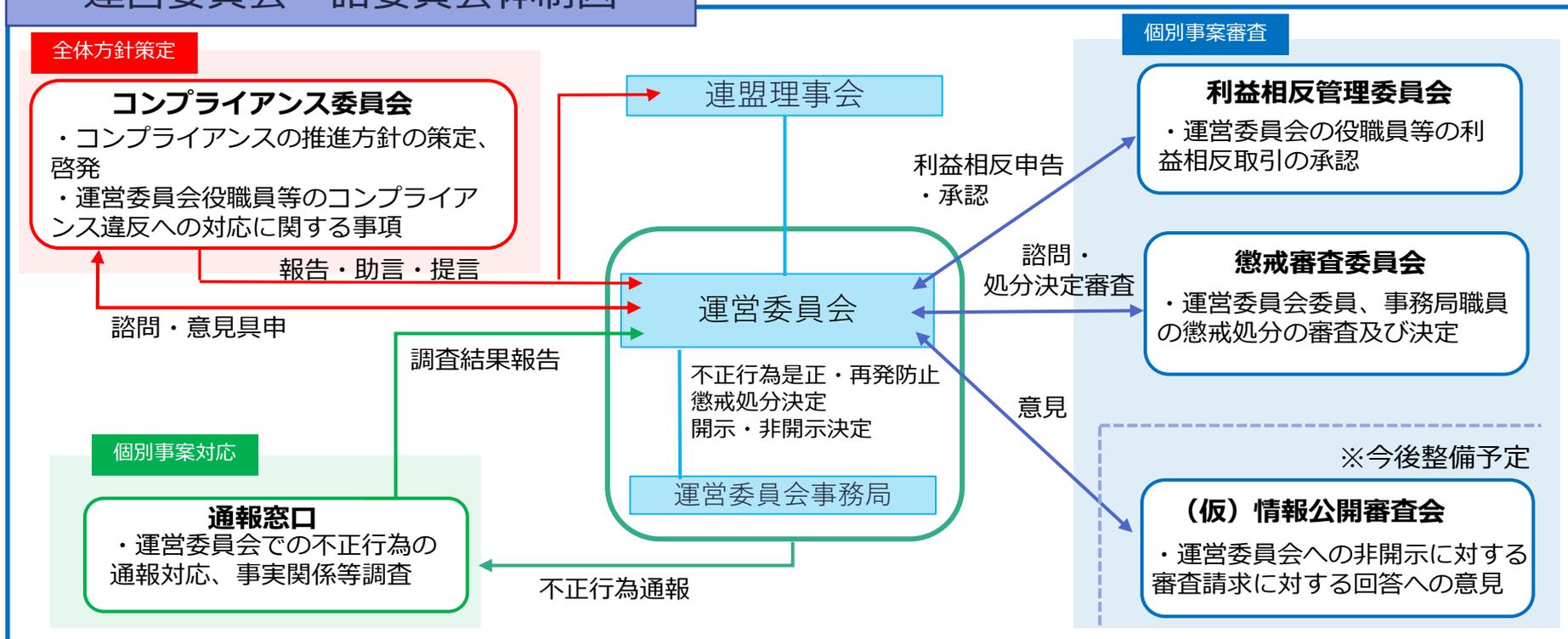
3. 報告

- (1) 大会エンブレムの決定について
- (2) デフリンピック・フェスティバルについて
- (3) 社会的・文化的プログラムについて
- (4) 大会2年前の取組について

2. 議題（1）諸委員会の委員の選任等について

- 東京2025デフリンピック開催に向けて、大会運営主体である運営委員会と運営実務を担う東京都スポーツ文化事業団それぞれが、スポーツ庁の「大規模な国際又は国内競技大会の組織委員会等のガバナンス体制等の在り方に関する指針」及び東京都の「国際スポーツ大会への東京都の関与のガイドライン」（以下「指針等」という。）を踏まえ、ガバナンス体制の構築に取り組むこととしている。
- 運営委員会では、指針等で求められているコンプライアンス委員会、利益相反管理委員会、懲戒審査委員会、内部通報の諸規程を整備した。この規定に基づき、委員の選任等を行う。
- 情報公開審査会の設置にかかる規程については、今後整備予定である。

運営委員会 諸委員会体制図



①コンプライアンス委員会の委員選任

【委員の要件等】

- ・運営委員会において、連盟理事長を除く理事又は外部の学識経験者から3名以上
- ・理事、外部学識経験者、女性委員をそれぞれ最低1名以上
- ・審議事項は、出席した委員の過半数の同意をもって可決

【委員会の主な役割】

- ・コンプライアンスの推進に係る重要な方針の策定、啓発
- ・運営委員会役職員等のコンプライアンス違反への対応に関する事項

【選任の考え方及び委員（案）】

- ・コンプライアンス委員会規程に定める要件を満たすこと
- ・弁護士、組織委員会等の実情やスポーツや大規模な競技大会の持つ意義を十分に理解した有識者、女性委員を配置

区分	氏名	役職等	選定理由
外部学識経験者	川根 紀夫	元 佐倉市福祉部長 順天堂大学スポーツ健康科学部 非常勤講師	指定管理者制度における民間事業者選定業務にも携わった等、公務員としての豊富な行政経験の実績がある。また、大学非常勤講師として行政財政や福祉計画等を担当する等、深い造詣があり、コンプライアンス監督を期待でき、適任である
外部学識経験者 女性委員	森 せい子	社会福祉法人東京聴覚障害者福祉事業協会 東京手話通訳等派遣センター センター長 精神保健福祉士	社会福祉法人の要職歴任の経験により、法人運営におけるガバナンスやコンプライアンス問題に精通。また、人権援護や多様性に深い造詣があり、適任である
外部学識経験者	田門 浩	弁護士	弁護士として幅広い法令に関する知見はもとより、人権やコンプライアンス問題に精通している。また、国際ろう者スポーツ委員会法務委員の経験があり、スポーツ分野にも精通しており、適任である
連盟理事 女性委員	吉野 幸代	全日本ろうあ連盟理事	九州聴覚障害者団体連合会の体育部長を9年間務め、地域スポーツ大会の運営を行った豊富な経験を有し、スポーツ大会運営の実情や大会意義を理解しており、適任である

②利益相反管理委員会の委員選任

【委員の要件】

- ・ 運営委員会において、連盟理事長を除く理事及び外部の有識者を3名以上
- ・ 委員長は外部有識者
- ・ 審議事項は、出席した委員の過半数の同意をもって可決

【委員会の主な役割】

- ・ 運営委員会の役職員等の利益相反取引の承認

【選任の考え方及び委員（案）】

- ・ 利益相反管理規程に定める要件を満たすこと
- ・ 連盟及び関連団体の役職員に就任していない外部有識者を過半数とし、理事会からの中立性を担保

区分	氏名	役職等	選定理由
外部有識者	濱田 豊彦	東京学芸大学副学長	大学副学長として、大学運営等に携わり、また高い倫理観、独立性、多様性への造詣がある。 また、連盟及び関連団体の役職員に就任しておらず、外部の目線での適正な利益相反に関する監督が期待でき、適任である
外部有識者	田門 浩	弁護士	弁護士として幅広い法令に関する知見はもとより、人権やコンプライアンス問題に精通している。 また、国際ろう者スポーツ委員会法務委員会において、利益相反審査にも携わった経験を有し、適任である
連盟理事	山根 昭治	全日本ろうあ連盟理事 本部事務所長	本部事務所長として契約やガバナンス、利益相反関連の審査等の実務的な経験及び知見を有し、適任である

③懲戒審査委員会の委員の選任

【委員の要件】

- ・連盟理事長を除く理事及び外部の有識者を3名以上
- ・委員長は外部有識者
- ・審議事項は、出席した委員の過半数の同意をもって可決

【委員会の主な役割】

- ・運営委員会委員、事務局職員の懲戒処分の審査及び決定

【選任の考え方及び委員（案）】

- ・懲戒審査委員会設置要綱に定める要件を満たすこと
- ・連盟又は関係団体の役職員に就任していない外部有識者を過半数とすることで、処分の中立性を担保
- ・懲戒処分に関する知見を有した人で構成し、専門性を担保

区分	氏名	役職等	選定理由
外部有識者	渡辺 正夫	元船橋市立船橋特別支援学校 校長 一般社団法人全国手話通訳問題研究会会長	教育委員会や教育関連の要職等、公務員としての豊富な行政経験および要職歴任による組織のガバナンス知識に精通している また、職員管理に深い見識を有しており、連盟や関連団体に属した経験がないため、外部の目線での適正な審査が期待でき、適任である
外部有識者	田門 浩	弁護士	弁護士として幅広い法令に関する知見はもとより、社会福祉法人理事長や複数団体の監事を務めた際に、職員等の懲戒手続に関わった経験を有し、適任である
連盟理事	河原 雅浩	全日本ろうあ連盟理事 公益社団法人神奈川県聴覚障害者協会理事長	連盟理事としての労働、権利問題に関する豊富な知見に加え、民間企業や法人団体の人事や労働、職員管理に係る業務に係る経験を有しており、適任である

④通報窓口の指定

【窓口の要件等】

- ・運営委員会において、指定する外部機関
- ・通報窓口は、男女両方を配置

【通報窓口の主な役割】

- ・運営委員会での不正行為（法令違反、ハラスメント等）の通報対応、事実関係等調査

【指定の考え方及び通報窓口（案）】

- ・内部通報規程に定める要件をみたすこと
- ・外部の中立的な弁護士が通報制度を整備、運用
- ・手話による相談が可能な窓口を設けることで、利用しやすい環境の整備
- ・連盟又は関連団体の役職員に就任していない人を通報窓口とすることで、独立した窓口とする

区分	氏名	役職等	選定理由
男性窓口	田門 浩	弁護士	弁護士としての幅広い法令に関する知見に加え、日弁連人権擁護委員会特別委嘱委員として、人権やコンプライアンス問題に精通しているほか、デフスポーツに関するコンプライアンス問題に関する経験や実績を有している。 また、連盟やその関連団体の役職員に就任しておらず、独立した通報窓口としての機能を担保することができ、適任である。 加えて、手話言語が堪能であることから、手話言語による通報、相談、ヒアリング体制を構築し、通報者がより通報しやすい環境整備が可能となる。
女性窓口	久保 陽奈	弁護士	弁護士としての幅広い法令に関する知見に加え、日弁連人権擁護委員会特別委嘱委員として、人権問題や不正行為の法的対応やガバナンスやコンプライアンス問題の経験を有している。 また、連盟やその関連団体の役職員に就任しておらず、独立した通報窓口としての機能を担保することができ、適任である。

2. 議題 (2)

「第25回夏季デフリンピック競技大会 東京2025 開催基本計画」の策定について

○ 構成

- ・ 第1章から第4章まで
大会ビジョンをはじめとする大会概要に関する内容
- ・ 第5章及び第6章
大会を通じて残すレガシーに関する内容
- ・ 第7章及び第8章
大会運営体制や競技会場、宿泊・輸送など大会の運営実務面に関する内容

※ 障害当事者や有識者の意見を計画に反映させるため、東京都スポーツ文化事業団内に設置した「デフリンピック大会運営にかかるアスリート会議」において議論

○ 今後のスケジュール

- ・ 11月8日 東京都スポーツ文化事業団 臨時理事会
- ・ 11月11日、12日 全日本ろうあ連盟 理事会
- ・ 11月下旬 第5回大会準備連携会議

3. 報告（1）大会エンブレムの決定について

グループワーク 投票、決定、発表

9月3日（日）午後には東京都パラスポーツトレーニングセンターで行われた『2025年デフリンピック大会エンブレムをえらぼう！ 中高生によるエンブレムデザイン投票グループワーク・発表イベント』において、候補案3案から都内中高生の投票により決定した

大会エンブレムは、今後、大会の気運醸成やPRに活用し、大会の知名度向上にもつなげていく



制作者：多田伊吹さん（筑波技術大学 産業技術学部 総合デザイン学科 4年）

【デザインに込めた思い】

- 人々の繋がりを意味する「輪」をテーマとした
- デザインでは、デフコミュニティの代表的なシンボルである「手」を表し、デフリンピックを通して競技と話題に触れ、互いの交流やコミュニティが「輪」のように繋がった先には、新たな未来の花が咲いていくことを表現
- 花は桜の花弁をモチーフとした

自治体等が気運醸成やPRのためにエンブレムを掲載するにあたり、正しく使用されることを目的に『東京2025デフリンピック大会エンブレム使用ガイドライン』を策定した

3. 報告 (2) デフリンピック・フェスティバルについて

○ 助成要件

- ・大会ビジョンにある「あらゆる人が協働」、「子どもの参画」、「デフスポーツやろう者の文化への理解を促進」、「共生社会づくりに貢献」等に留意し、デフリンピックやデフスポーツについて関心や認知度の向上を図り、デフリンピックの気運醸成に資するもの（必ずしもデフリンピック・フェスティバルという名称でなくてもよい）
- ・実施主体が、地域ろう当事者団体と地域行政や関係機関との共催、もしくは地域ろう当事者団体主催、地域行政後援

○ 対象とする経費

諸謝金、旅費、借損料、印刷製本費、消耗品費、通信運搬費、雑役務費、保険料、委託料

○ 助成金額

10万円（上限）

※本助成金に加え、他の補助金や参加費等の収入がある場合で、収入額が支出額を超過した場合は、超過した金額を差し引いて助成するものとする。

○ 助成承認手続き

開催要項、予算案を運営委員会事務局にて審査

○ 申請・承認状況

承認済 : 北海道ブロック（開催地：札幌）、東北ブロック（開催地：福島）、東海ブロック（開催地：静岡）、九州ブロック（開催地：福岡）

申請準備中 : 関東ブロック（候補地：神奈川県）、北信越ブロック（候補地：石川県）、近畿ブロック（開催地：大阪府）、中国・四国ブロック（開催地：鳥取県）

今後の取り組み

- デフリンピック・フェスティバル開催終了後、主催団体から報告書、決算書、領収書等の提出を受け、審査を行う
- 申請準備中の4ブロックには、上記の開催状況や開催形態等を共有し、助言を行っていく
- デフリンピック・フェスティバルの報告をもとに分析を行い、来年度の気運醸成事業の検討および策定に活かしていく

申請状況等一覧

ブロック	開催地	状況	開催規模、内容	主催者・連携先
①北海道ブロック 札幌市（北海道） デフリンピック・フェスティバル inほっかいどう		承認済	○11月3日（祝） ○対象：市民200名 ○予算：23万円 ○内容：啓発映画上映、講演、パネルディスカッション（パラリンピアン、デフリンピアン）	公益社団法人北海道ろうあ連盟 ○後援・協力：北海道、北海道教育委員会、北海道障がい者スポーツ協会、デフ競技団体等
②東北ブロック いわき市（福島県） デフリンピック・フェスティバル		承認済	○11月12日（日） ○対象：小学生100名 ○予算：10万円 ○内容：手話講座	一般社団法人福島県聴覚障害者協会 ○共催：福島県 ○協力：いわきFC、日本ろう者サッカー協会、日本ブラインドサッカー協会
③関東	候補地：神奈川県 申請準備中			
④東海ブロック 伊豆市（静岡県） ジャパン・マウンテンバイク・カップ2023		承認済	○10月22日（日） ○対象：ジャパンマウンテンバイクカップ2023観客（想定数2500名） ○予算：10万円 ○内容：デフリンピック啓発ブース、自転車競技写真展、PRグッズ配布	東海聴覚障害者連盟 ○主管：静岡県聴覚障害者協会 ○連携：ジャパンマウンテンバイクカップ実行委員会（共催：静岡県、協力静岡県聴覚障害者協会等）
⑤北信越	候補地：石川県 申請準備中			
⑥近畿	大阪府	準備中	○2024年3月20日実施予定	調整中
⑦中国 四国	候補地：鳥取県 申請準備中			
⑧九州ブロック 春日市（福岡県） デフリンピック・フェスティバル in九州		承認済	○11月5日（日） ○対象：市民500名 ○予算：30万円 ○内容：啓発映画上映、講演（デフアスリート）、デフアスリート交流・体験会	社会福祉法人福岡県聴覚障害者協会 ○主管：福岡県ろうあ者スポーツ委員会 ○後援・協力：福岡県、九州聴覚障害者団体連合会

3. 報告 (3) 社会的・文化的プログラムについて

検討チーム委員の選任

- 社会的・文化的プログラムの検討チームの委員を、きこえない芸術文化当事者団体や外部有識者等から運営委員会事務局にて選任した

氏名	役職等	備考
チームリーダー 植野 圭哉	千葉県聴覚障害者協会理事長 全日本ろう者演劇協会 事務局長	第2回運営委員会にてチームリーダーの選任について報告済み
椎名 志津子	NPO法人シアター・アクセシビリティネットワーク 監事	きこえない芸術文化当事者団体
那須 善子	手話読み聞かせグループ たま手ばこ 代表	きこえない芸術文化当事者団体
齊藤 裕美	日本財団公益事業部審査チーム リーダー	外部委員
中山 浩志	東京都生活文化スポーツ局国際スポーツ事業部 事業調整担当課長	外部委員

取組状況及び今後の予定

- 検討チーム会議に向けて、過去デフリンピック大会における社会的・文化的プログラムの調査および国内の手話言語やろう者の文化、きこえないことの体験等の体験プログラムの調査を行う
- 本年度は、東京2025デフリンピックにおける社会的・文化的プログラム案の策定に取り組む

3. 報告（4）大会2年前の取組について

日本初開催「東京 2025 デフリンピック」まであと2年！

きこえないスタッフと、デジタル技術を活用した新しいコミュニケーションを体験
『みるカフェ』が11月15日（水）から原宿に期間限定オープン！

店内には手話アートの展示や、過去のデフリンピック映像も放映

2年後の2025年11月15日～26日、デフアスリートの国際スポーツ大会であるデフリンピックが、日本で初めて開催されます。東京都では、デフリンピックへの関心を高めていくため、さまざまな取組を行っています。

このたび、2年前の機を捉え、若年層が集まり、新しい文化の発信地である原宿のカフェにおいて、デジタル技術を活用して言語を“見える”化し、きこえる・きこえないに関わらず誰もがつながることができるコンセプトカフェ『みるカフェ』を、大会開催期間に合わせた11月15日（水）～26日（日）の期間限定でオープンします。



1 『みるカフェ』について

『みるカフェ』は、音声などの言語を文字に変えて“見える”化する技術を活用し、きこえる・きこえないに関わらず、誰もが快適にコミュニケーションできる環境づくり、そしてその体験を通して共生社会への理解を促すことを目的としたコンセプトカフェです。カフェでは、入店から注文、スタッフとの交流、会計まで、デジタル技術を活用

し、聴覚障害者(きこえないスタッフ)と円滑なコミュニケーションを図ることができます。

カフェでは、音声又はキーボードで入力した内容を透明ディスプレイ上に表示できる技術や、スマートフォンやタブレット上で音声のテキスト変換、手書き文字の表示が可能な技術、手話をテキストに変換する技術などのデジタル技術を通して、きこえないスタッフを含む店舗スタッフとのコミュニケーションを体験いただけます。

また店内では、門秀彦さん※による『TALKING HANDS』というコンセプトで手話をモチーフにしたポップアートの展示や、過去のデフリンピック映像の放映、触ってわかるデフエンブレムモニュメント、手話絵本の展示などを行い、デフの世界に触れるきっかけとなる情報を多面的に発信していきます。

※門秀彦(かどひでひこ):ろう者の両親をもち、音声言語や手話では伝えきれない思いを表現するため、

幼少期から絵を描き始める。手話をモチーフにした手話アート作品を数多く発表しており、アニメーション、お菓子のパッケージ、飲食店の店内アート、ホテルルームプロデュースを手掛けるなど活動が多岐に渡る。



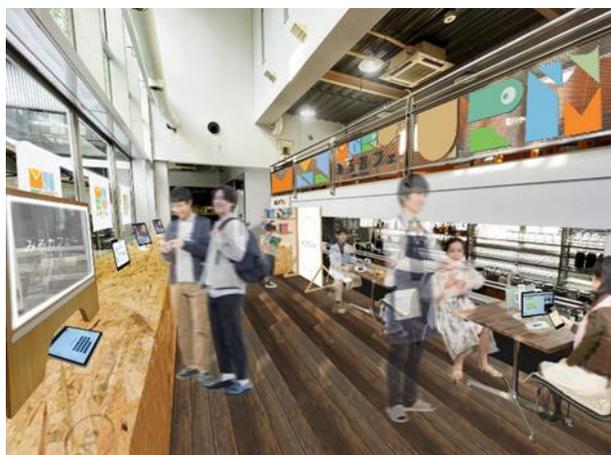
2 実施概要

■ 実施期間: 2023年11月15日(水)~26日(日)

■ 営業時間: 11:00~20:00

■ 場 所: ECO FARM CAFE 632

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前6丁目32-10 ピアザアネックス 1F



店内ではデジタル技術を通じてきこえないスタッフとのコミュニケーションを体験できる



門秀彦さんの手話アートがポップに彩る店内

3 カフェで体験できる主なデジタル技術

KIKI



フォトリアルな手話 CG アバター。来店された方へ手話でメッセージを届ける。東京 2025 デフリンピック応援アンバサダー。

音声翻訳表示ディスプレイ(TOPPAN 株式会社ほか)



音声又はキーボードで入力した内容を透明ディスプレイ上に表示し、対面コミュニケーションを可能に。多言語翻訳も可能。

こえとら・SpeechCanvas (株式会社フィート)



スマホまたはタブレット上で音声をテキスト変換するほか、手書き文字も表示できる。

SureTalk

(国立大学法人電気通信大学・ソフトバンク株式会社)



手話と音声による双方向コミュニケーションシステム

Antenna (オンテナ) (富士通株式会社)



髪の毛や耳たぶ、えり元やそで口などに身に付け、振動と光によって音の特徴をからだで感じるデバイス。

Hapbeat (Hapbeat 合同会社)



競技音や観客の歓声などの音を振動に変換し、音の方向、強弱、リズムなどを「体で感じられる」デバイス。

4 その他の取組

■ 都庁舎ライトアップ

11月15日(水)～26日(日) 17:00～19:00に、デフリンピックのロゴをイメージした赤・青・黄・緑の4色にライトアップします。

